



HbA1cの年次推移

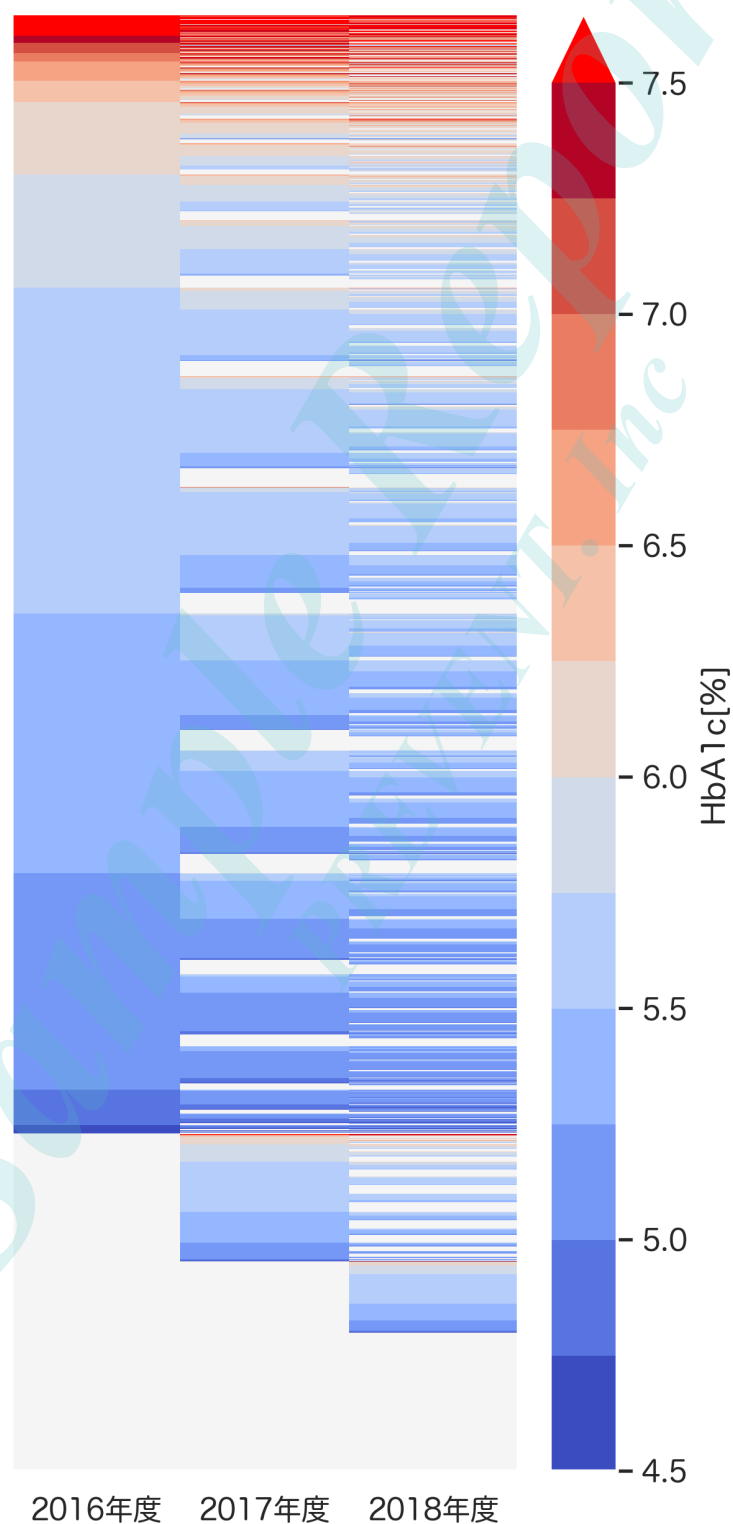
株式会社PREVENT

お問い合わせ

<https://prevent.co.jp/contact/>

HbA1cの年次推移

2016年度の健診受診者〇〇名を対象として、受診者それぞれのHbA1cの3年間の変化をヒートマップで可視化した。青が濃いほどHbA1cが低く、赤が濃いほどHbA1cは高い。HbA1cが6.0%で青色と赤色が反転し、白色はHbA1cの検査値がないことを示している。

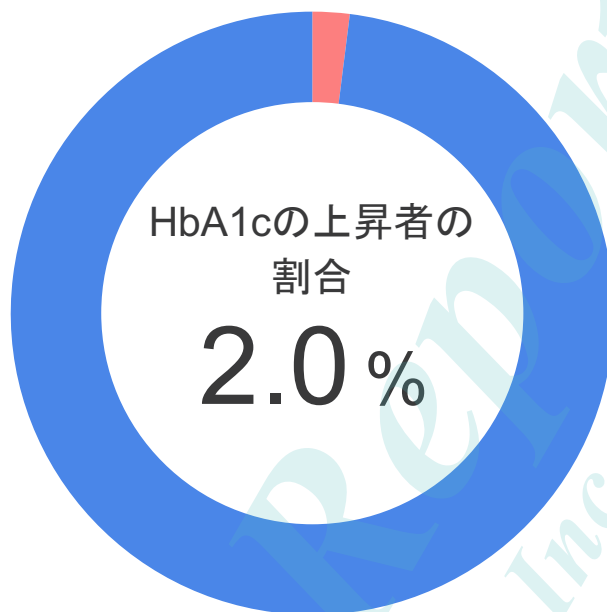


HbA1cの上昇傾向がみられた方

上昇ありの定義:

2016年度にHbA1cが6.5%未満であったが、2018年度までにHbA1cが6.5%以上に上昇した場合を”上昇あり”とした

※ 2016年度にHbA1cが6.5%以上の方は、解析対象外とした



ロジスティック回帰によるHbA1c上昇の要因分析

HbA1c上昇の有無を目的変数としてロジスティック回帰分析を行い、HbA1cの上昇に影響する因子を調べた

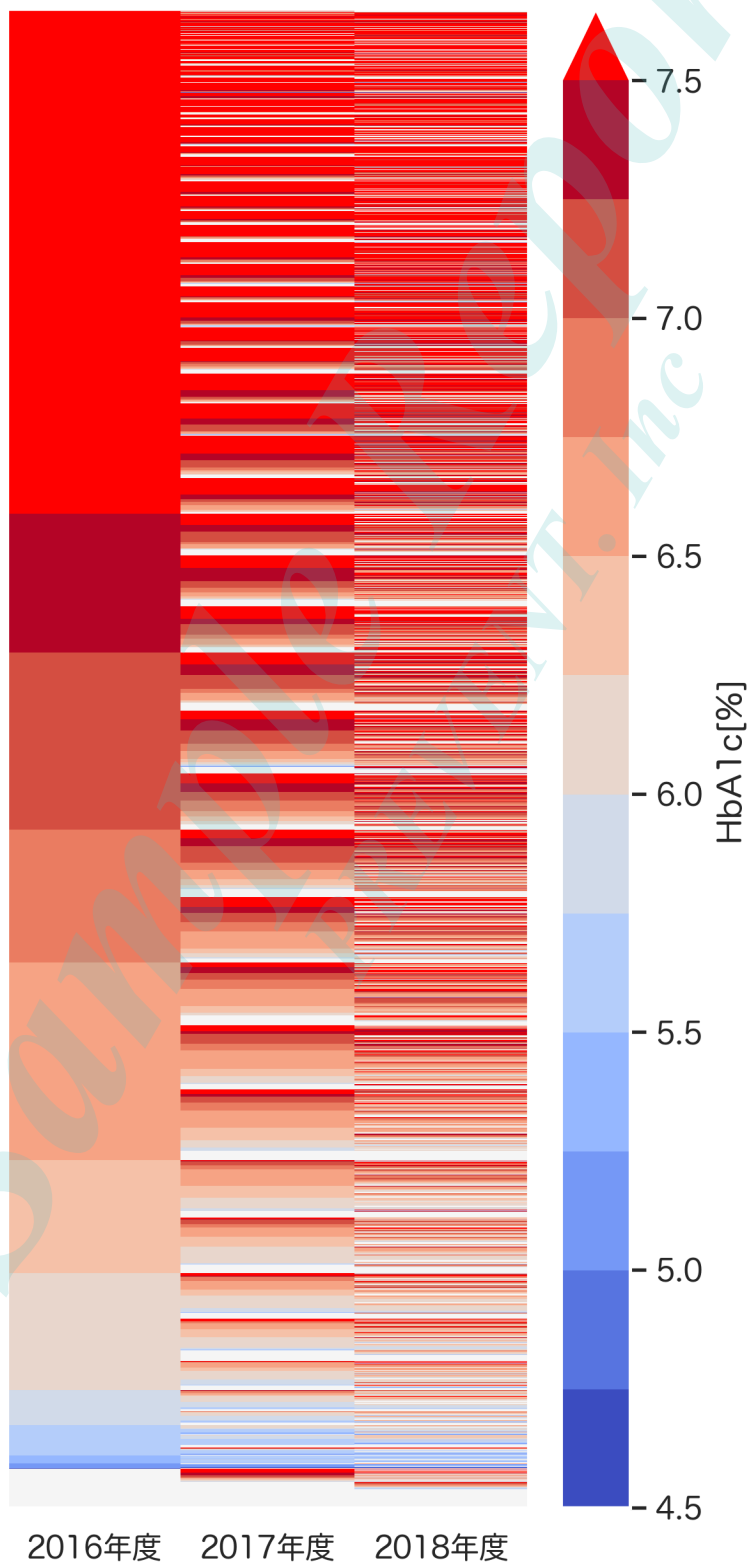
	係数	標準誤差	p値	オッズ比	信頼区間
切片	-6.45	0.14			
変数a	0.49	0.14	<0.001	1.64	1.24-2.16
変数b	0.65	0.18	<0.001	1.91	1.35-2.70
変数c	0.16	0.17	0.352	1.17	0.84-1.63
変数d	1.05	0.07	<0.001	2.87	2.51-3.28

変数dの定義: xxが〇〇以上

HbA1cの上昇傾向がみられた人は、2016年度HbA1cの検査値がありその後検査値を追うことのできた〇〇人中△△人の2.0%であった。ロジスティック回帰分析の結果より、**変数a**であること、**変数b**であること、**変数d**であることで、HbA1の上昇するケースが多かった。

HbA1cの年次推移 -糖尿病治療中-

2016年度の健診受診者かつ糖尿病治療中の方〇〇名を対象として、受診者それぞれのHbA1cの3年間の変化をヒートマップで可視化した。

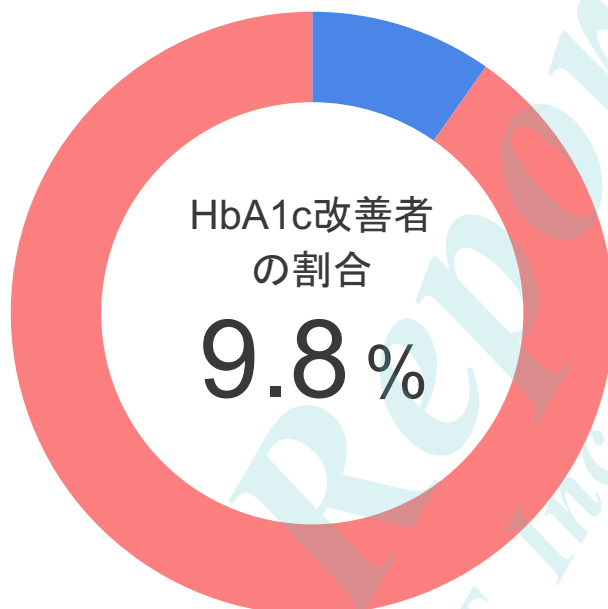


HbA1cの改善傾向がみられた方

改善ありの定義:

2016年度に糖尿病薬服用中かつHbA1cが6.5%以上であったが、2018年度にHbA1cが6.5%未満に減少した場合を”改善あり”とした

※ 2016年度にHbA1cが6.5%未満の方は、解析対象外とした



ロジスティック回帰によるHbA1c改善の要因分析

HbA1c改善の有無を目的変数としてロジスティック回帰分析を行い、HbA1cの改善に影響する因子を調べた

	係数	標準誤差	p値	オッズ比	信頼区間
切片	-2.52	0.14			
変数a	0.82	0.16	<0.001	2.28	1.65-3.14
変数b	-0.49	0.16	<0.001	0.61	0.45-0.84

HbA1cの改善傾向のみられた人は、〇〇人中△△人の9.8%であった。ロジスティック回帰分析の結果より、**変数a**であることにHbA1の改善を認める傾向にあったが、**変数b**については改善傾向がみとめられなかった。